

「テレワークが始まった。 ハンコを押すために出社した。」

SmartHR代表取締役

宮田 昇始
みやた しょうじ



緊急事態宣言下での反響

「テレワークが始まった。ハンコを押すために出社した。」

これは、緊急事態宣言が発令された1週間後、JR新宿駅や東京メトロ都内主要駅に掲載されたSmartHRの広告のコピーだ。出勤せざるを得なかった方はもちろん、外出自粛中だった方も、SNSで目にしたかもしれない。実はこの広告、緊急事態宣言のタイミングを狙ったものではなかった。

このコピーが生まれたのは、今年の3月上旬。新型コロナウイルス感染症の影響で、ゆるやかにテレワーク推奨の空気が世の中に生まれ始めたころだ。「会社ではテレワークが導入されたが、それでも自分はハンコのために出社が必要」という社員の声を代弁するようなクリエイティブで、社内業務のデジタル化の余地に気付きを得てほしい、という意図があった。しかし、掲載のタイミングが新型コロナウイルスの感染拡大、そして緊急事態宣言と重

なったことで、インパクトが増し、想像以上の大反響があった。広告自体が複数のメディアで取り上げられ、SNSでも、数万いいねを超えるツイートが複数発生した。外出が6割減るなかでの屋外広告だったが、そのインパクトはテレビCM並みのものとなった。

しかし、予測できなかったとはいえ、本当に出勤せざるを得なかった人たちにとつては、厳しい表現の広告にみえたかもしれない。不快な思いをさせてしまった方には、この場を借りてあらためて謝罪をしたい。

年間1・3億回の「紙」「ハンコ」「役所に並ぶ」

この「SmartHR」について少しだけ紹介させてほしい。SmartHRとは、人事業務の担当者や「手書き」「ハンコ」「役所に並ぶ」などのペーパーワークから解放するクラウド人事業務ソフトだ。新入社員がスマホから個人情報を入力するだけで、入社時に必要な書類を自動作成。社会保険・雇用保険など

のウェブ申請も可能。雇用契約や、年末調整、給与明細もスマホやパソコンだけで完結する。私たちSmartHRが変えようとしているのは、企業にとってみれば社内で発生する人事業務分野の手続きであり、社会全体で見れば雇用・就労に関する行政手続きだ。

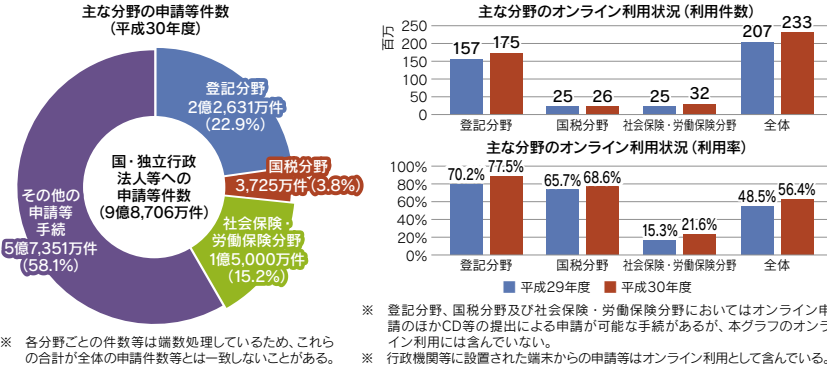
この分野では、「紙」「ハンコ」が本当にひどい状況で残り続けている。図表データとおり、社会保険・労働保険の分野は、実は年間で1・5億回もの手続きが発生している。実は国税より4倍以上も多い。

しかし、その電子化率はわずか21・6%と、登記や国税分野の電子化率に比べて約50%も後れを取っている。電子化されていない残り1・3億回の多くは、「紙」「ハンコ」「役所に並ぶ」で対応されている。この2020年においてもだ。

一つ希望があるとすれば、他の分野よりもオンライン化の伸び率が最も高く、本年4月に法改正された大企業の電子申請義務化や、昨今のテレワーク化の影響もあり、今後急速

図表 主な分野のオンライン利用状況

■ 平成30年度における主な分野（登記分野、国税分野、社会保険・労働保険分野）の申請等手続[※]のオンライン利用率は56.4%。平成29年度に比べて約7.9ポイント増加。
 ※利用頻度が高い年間申請等件数が100万件以上の手続及び主として企業等が反復的又は継続的に利用する手続であってオンライン手続の利用率



出所：行政手続等の棚卸結果等の概要（令和2年7月2日総務省内閣官房IT総合戦略室）



SmartHR 駅中広告

症が流行している状態下で、健康保険証の発行が滞れば、新入社員はより不安を感じるであろう。しかし、旧来型の仕事の進め方では、書類の受け渡しや、ハンコの押印のために、必ず出社する必要が有る。第2波で外

更」ではとても苦勞されたのではないだろうか。実施の意思決定は経営陣が行うかもしれないが、ルールを整備し、それを実現させるのはほかならぬ人事労務をはじめとするバックオフィスの担当者だ。

- ・テレワークや時差通勤に伴う勤怠ルールの変更
- ・所定労働時間をどう担保してもらうか
- ・テレワーク推奨のなかで新入社員をどう受け入れるか
- ・テレワークにあわせた人事評価制度の運用や刷新

通常時でも、人事労務は大量のペーパーワークで忙しい部署だが、日々変わる情勢を注視しつつ、右記のような事柄にも対応しなければならぬ。効率化できるところは効率化を進め、有事にもすばやく対応できるよう、リソースに余力を持つておく必要がある。また、社会保険手続きは、健康保険証の発行にもかかわっており、止めることができない業務だ。特に感染症が流行している状態下で、健康保険証の発行が滞れば、新入社員はより不安を感じるであろう。しかし、旧来型の仕事の進め方では、書類の受け渡しや、ハンコの押印のために、必ず出社する必要が有る。第2波で外

さて、季節はいつの間にか、社内に大量の紙が発生する年末調整のシーズンが迫ってきている。第2波の足音が聞こえるいま、まさにクラウド人事労務ソフトの出番なのだが、シェア第1位のSmartHRですら、市場の1%ほどにしか普及できていない。世に出てまだ4年半。数十年の歴史がある会計や勤怠に関するソフトと比較すると、その普及は後れている状態だ。

2020年においてもアナログな人事労務を、デジタル化させていくこと、そして健康保険証などの発行を止めずに、社員の皆さんが安心して働ける環境をつくっていくこと。それこそがわれわれの使命だ。

出禁止令が出た場合には止まってしまおう。

導入決定から2日で 203名の入社準備を実現

緊急事態宣言直前の4月1日、医療・介護領域における人材紹介・派遣サービス大手の、とある企業がSmartHRを導入した。入社式と新入社員の集合研修は、延期やオンラインでの対応に切り替えることができたが、雇用契約書をはじめとした入社手続き書類の受け渡しと押印は通常対面で行っており、これを止めないためだ。結果、外出自粛期間中でもオンラインで円滑に入社手続きが完了した。導入決定から2日で203名の受け入れ準備を実現したという。事例記事もオンラインに掲載されているので、興味がある方は、ぜひSmartHRの公式サイトを訪れてほしい。

「コロナ禍が継続するいま、私たちにできること」